

国際医薬品原料・中間体展（CPhI Japan 2016）（国際医薬品原料・中間体展）で22日、革新的医薬品・医療機器の創出に向けて」と題された講演、パネルディスカッションが行われた。創薬の強化のためには臨床研究の進歩が不

革新的医薬品創出へ連携強化

PMDA

近藤 達也 理事長など



可欠であり、多様な人材の確保が求められる状況

専任理事、菱山豊日本医療研究開発機構（AMED）

右から日本製薬工業協会の稲垣氏、AMEDの菱山執行役、PMDA近藤理事長が報告された。

講演は、稲垣治日本製薬工業協会医薬品評価委員会委員長（フステラス製薬開発本部長）専任理事、菱山豊日本医療研究開発機構（AMED）執行役、近藤達也医薬品医療機器総合機構（PMDA）理事長の3氏が行った。

企業の立場から現在の創薬状況を説明した稲垣氏には、「開発の短縮化のためには、より、確からしい、創薬標的の探索、疾病の治療を深めての不確定要素の削減、信頼性の高い医療エビデンスの蓄積が必要」と強調。治療は積りではなく、「臨床研究の進歩が医薬品開発につながる」と指摘した。アカ

「多様な人材必要」

デミアの成果を生かすために産官学の幅広い連携強化が求められるとも。

また菱山氏は、その産官学連携の司令塔であるAMED発足から1年間の成果などを解説。「未診断疾患イニシアチフ」「創薬支援ネットワーク」「創薬標的探索官民共同研究」などを新たな事業として開始した」などと語り、基礎から開発までいいたる産学協働を支える機能がAMEDの始動により高まっている状況を説明した。

一方、近藤氏は、レギュラトリサイエンスを基盤としたPMDAの事業内容を紹介。開発ラゲ

解消への活動として、従来からの「薬事戦略相談事業」のほか、昨年に「AMEDと連携し、AMEDを入り口、PMDAを出口とした日本発の革新的医薬品、医療機器などの創出に向けた取り組みを始めた」と語った。

また、同じく昨年に「PMDA国際戦略」をまとめ「世界のPMDA」として日本発の薬事技術を世界に発信していく「体制整備に乗り出した件にも触れた。

講演会後のパネルディスカッションでは、川原章日本製薬工業協会専務理事を司会に、3氏が革新的な医薬品などの創出に向けて必要となる人材などについて語り合った。近藤氏は「これから情報通信技術（ICT）分野が強化されていくなか、国際的イノベーションが必要となる。これを推進できる人材が求められる」と発言。

また菱山氏が「PMDAは多様なバックグラウンドの人が集まって開始したが、1年が経ちかなり融合が進んできた」と説明。これを受けて稲垣氏が「多様な人材が集まるとコミュニケーションが良くなる証拠」と指摘するなか、人材交流の重要性で各氏の認識が一致した。